

小松隆央 先生

患者さんが求めているのは
“痛くないこと”なのでしょうか？

今回は、東京練馬区にあるこまつ鍼灸整骨院院長の小松隆央先生です。西武池袋線の石神井公園駅南口から歩いて1分ほどの商店街にあります。先生は高麗手指鍼療法という治療法を中心に臨床をされています。治療家になられた経緯や、高麗手指鍼療法とはどのような治療法なのかを伺いました。

●現在の治療院を開業されたのは？

私は30を過ぎて治療の道に入ったのですが、スタートは鍼灸アマ指です。資格を得てからは整形外科、一般の治療院、サウナなどいろんなところで臨床経験をつみました。別の場所に開業し、ここ石神井に移ってからは8年目になります。柔整の免許をとったのは4年前です。現在は保険診療のほかに自由診療で鍼、整体、マッサージ、カイロなど、患者さんの疾患に合わせた治療を提供しています。保険診療よりも自由診療のほうが比重は大きいですね。

●高麗手指鍼療法を取り入れたきっかけは？

基本的に私のスタンスは鍼灸師です。学校が東洋鍼灸で、3年間、経絡治療でなければ、あるいは内臓疾患が治せなければ鍼灸師ではない、というような環境でした。しかし実際問題、肩こり、腰痛などは治せても内臓疾患はなかなか治せません。なんとか習得しようとしても難しいわけです。自分が思っていたような、あこがれの先

生とかにははるかに遠くて、大変な世界に入ったなというのが率直な気持ちでした。それでしばらくは治療からはなれて1年くらいは別の仕事をする時期もありました。そんな行き詰っていたとき、友人に促されて、高麗手指鍼療法のセミナーに参加したのです。最初は全く本気ではなくて、自分の引き出しにそういう知識があってもいいだろうなというような軽い気持ちでした。たまたまその頃、私自身、胃の痛みを抱えていたのですが、高麗手指鍼療法の最初のセミナーで三里のところを刺した瞬間その痛みが消えたのです。その時はツーンと響いて手は痛かったのですが、胃の痛みは劇的によくなりました。その頃は整形外科に勤めていたのですが、ドクターは鍼に理解があって、患者さんにやってもいいと認めていただきました。手に刺すので電気をあてたりしている物療治療の間に服も着たままでできますからその点でも患者さんに応用するのに便利でした。いろいろな患者さんに試して、おもしろいほど効果が上がる

のですっかりのめりこんでいったのです。

●そもそも高麗手指鍼療法とはどのような療法なのでしょうか？

高麗手指鍼療法とは、1975年に韓国の柳泰佑先生が発表された鍼療法です。日本には77年に初めて紹介されていますから、歴史的にはほぼ同時に始まったといえるでしょう。高麗手指療法では、両手の手掌、手の背、手の指に全身に対応するアトラスがあると考えます。しかもその対応を単純な反射部位として捉えるのではなく、からだをめぐる十四経絡や経穴が手にも同じく流れているとみなしますから、経絡を利用した本治法だといえるのです。本治法だからこそ、高血圧にも糖尿病などを始として内臓にかかわる疾患にも効果を発揮するのです。もちろん局所治療としても大きな効果が期待できます。実際の治療では、手の反応点が治療点になりますからその部分に専用の鍼を複数本刺してしばらくおきます。

●指への鍼は痛いではありませんか？

みなさん、ほとんどの方がそうおっしゃいますし、痛くないということアピールする鍼治療があるのも確かです。正直なところ、確かに痛みはあります。しかし、患者さんが求めているのは“痛く

こまつ鍼灸整骨院
日本高麗手指鍼協会本部(セミナーお問合せ先)
〒177-0041
東京都練馬区石神井町3-20-11 2F
TEL&FAX:03-3904-4611
<http://homepage2.nifty.com/holistic/koureisuu.htm>
大阪府出身 昭和31年生

ないこと”なのでしょう。ただ症状が取れるか、ということなのではないでしょうか。今まで2、3千人の方にこの治療をしてきましたが、痛くてやめた方は2、3人です。手指鍼は慰安的な鍼ではありませんし、痛いといってもそんなに痛いわけではありません。とりわけこの手指鍼は一般に治癒困難とみられる疾患への効果が絶大なのです。

●診断法に入江フィンガー・テストを用いられていますが？

これは宮本先生という方が、手指鍼と入江FTと合体させることで、飛躍的に効果を高められたのです。入江FTを習得するのはなかなか大変だったのですが、勉強している間でも診断法として確実な診断ができるという臨床経験を目の当たりにしました。それで私の診断法としても欠かせないものとなったのです。本来の東洋医学でいう、未病を治すというそれにも合致するおもしろい治療法だと思います。

●一般的な鍼灸治療との違いは？一般的な鍼灸治療の効果においては、鍼そのものの効果や治療システムの効果より、治療をする人個人の能力に負う部分がとても大きいといえます。しかし高麗手指鍼治療は、個人の能力より、鍼そのものの効果、治療システムとして

の効果が際立っているのです。ですから、きちんと学べば必ずや習得することができますし、多くの難治といわれる疾患が治せるのです。治療部位は手指なので気胸や折針などの医療過誤がおきにくいのも長所といえるでしょう。

●来院される患者さんへの治療法のチョイスはどのようにされているのですか？

保険診療の方はとびこみで来られる方が多いのですが、お話を聞いて物療、マッサージ、関節矯正、必要ならばテーピングなどで治療していきます。より早く治療したいという方には自由診療をお勧めします。HPをごらんになっていらっしゃるような方はいろんなところを回ってうちにたどり着かれたというような場合が多いので保険診療の限界をご存知で、最初から自由診療を望まれます。やはりその方にも治療法の向き不向きがありますし、鍼とマッサージや整体をセットにしてというのが一番効率がいいかもしれません。

●自由診療だけでされることは？これから先、保険が厳しくなって

もやっていくことはできると思います。とはいえ、これから保険が厳しくなってくるから柔整師も自費でやっていかなければいけないという声も少なからず聞きますが、私はそんなに甘いものではないということも認識しています。これだけ多くの治療家が輩出されている時代ですから、自費の自由診療で1千万円を得るというのはやっぱり大変なんです。保険があるから整骨院に来ているという患者さんは多いのですから、そういう意識はやっぱり持っていたほうがいいと思います。

●将来は？

今の鍼灸界は中医学が主流で、日本の古典の経絡治療、また西洋医学的な手法があります。私はそこに第四の鍼灸として高麗手指鍼療法をもっと浸透させたいと思います。それでこつこつとセミナーなどを開いて鍼灸師やドクターに教えているところです。名人技を目指すのと違って、誰でも努力すれば習得できる療法ですから、そのことを伝えていきたいと思っています。

治療家になってからの迷いや悩みなどをざっくばらんにお話をしていただきました。そこからどのように進むのかその状況の中で、これだという治療法に出会ったのも、先生が治療は何なのかを前向きに求めていたからだと思います。高麗手指鍼療法のセミナーを開催されていますので、関心のある方はご連絡をどうぞ。

